

第4学年 社会科学学習指導案

1 小単元名「地域の発展に尽くした先人 ～ 300年の時を越えて生きる宮崎安貞 ～」

2 小単元の考え方

何のために

本学年の児童は、これまでの社会科学学習における様々な社会的事象や人々との出会いの中で、自分の課題をもって学習を進めることができるようになってきている。また、体験的活動を好み、五感をつかった調べ学習には、積極的に取り組むこともできる。しかし、追究する意欲が途中で低下してしまう児童も見られる。

また、福岡市の中心部に生活し、あふれる新しい情報の中で暮らしているために、新しい情報には敏感で抵抗がないが、古いものにあまり良いイメージをもたず、その価値をあまり感じていない。

それでも、一学期の「昔の道具」や「博多祇園山笠」の学習を通して、自分達の周りにある昔から伝えられている「もの」や「こと」の価値や、それを現在まで伝えてきた「ひと」の願いに気付くとともに、昔の生活が現在につながっていることにも気付きつつある。

そこで、本単元の学習を通して、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心について考え、その価値や人々の願いに気付かせたい。そして、地域の伝統や文化を受け継いできた人々の生き方に触れ、地域社会に対する誇りと愛情を育てたい。



何を

本小単元では、地域の人々の生活の向上に尽くした宮崎安貞の働きや、地域の伝統や文化を受け継いできた〇〇さんたちを取り上げる。このことは、次のような点についてとらえさせることができると考える。

- ・宮崎安貞が農民の生活の向上を願って開墾した「宮崎開き」は、その後、徐々に広がり、現在のわたしたちの暮らしを支える農業地帯となっていること。
- ・宮崎安貞が地道な努力の上に編纂した「農業全書」は、それ以後数百年にわたり農業の発展に大きく寄与していること。
- ・宮崎安貞の功績は、その地道な努力と実践を認めた人々の存在があつて、現在に伝えられていること。

これらを学習することは、地域の発展に尽くした先人の働きについて理解を深め、地域社会に対する誇りや愛情を培うことになると考える。



どのように

そこで、指導にあたっては、提示物（ラベル図）をつかった説明の活動を位置付けて、事実認識を深めるように次のような手だてを取りたい。

つかむ段階では、宮崎開きの土地の様子や写真をもとに、学習問題「なぜ、〇〇さんたちは、宮崎安貞さんの名前を、300年以上ものこしているのだろう。」を作り、文書資料から追究の視点「安貞さんの思いや願い」「安貞さんの努力や工夫」「安貞さんのえいきょう」の3つを設定する。

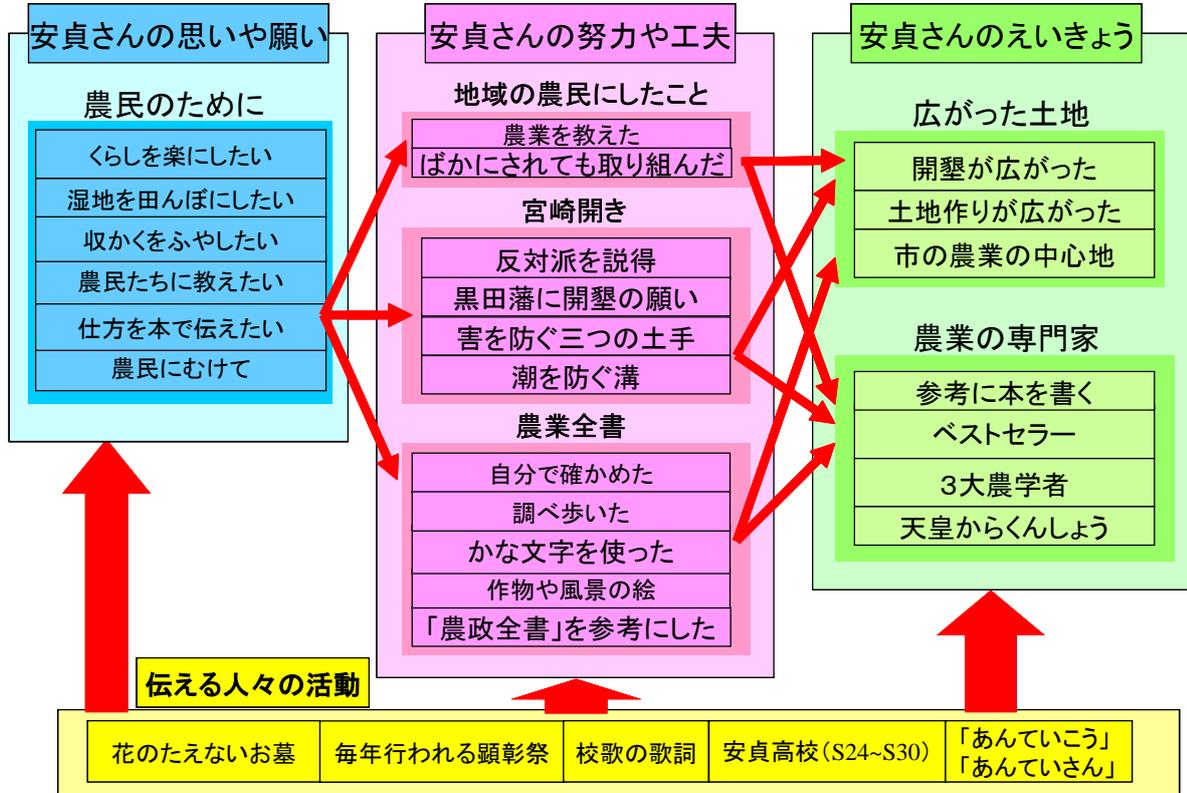
さぐる段階では、教師作成の宮崎安貞の概要から、宮崎開き、農業全書、その後の影響について書かれた資料をもとに、学習問題の答えにつながる事実をキーワードにして整理しながらラベル図を作らせる。そして、ラベル図をもとに説明の活動を2段階で位置付ける。中間交流では、キーワードをより確かなものにするために、小グループの構成を工夫する。全体交流では、学習問題の答えにつながる事実を児童全員が押さえることができる全体交流と、キーワードやタイトルの関係を押さえる全体交流の2つを位置付け、ラベル図を完成させる。

まとめる段階では、完成したラベル図をつかって、学習問題の答えをまとめる。ここでは、小グループで児童一人一人が説明する場面を位置付け、交流を通して事実認識を深めさせる。

こんな提示物で

ラベル図

なぜ、さんたちは、宮崎安貞さんの名前を、300年以上も残しているのだろう。



○ 提示物の意図

視点ごとに資料等から調べた事実をキーワードにしたものを、重要なものから順に並べることで、それぞれの視点の事実を確かに行うことができる。

キーワードやタイトルを関係付けることで、視点同士のつながりが分かり、学習問題の答えを順序立てて説明することができる。

学習問題の答えを説明しやすくするために、視点を左から順に並べ、順序良く説明することができる。

最後に、宮崎安貞の「思いや願い」「努力や工夫」「与えた影響」の事実を受けて、伝える人々の活動のキーワードを3つの視点の下に配置することで、宮崎安貞の働きに感謝し続ける人々がいるからこそ、今でも名前が残っていることに気付かせ、本単元で身に付けさせたい地域社会への誇りや愛情を育てることができると考える。

こんな目標と指導計画で

3 小単元の目標と指導計画 (全15時間)

○ 学ぶ意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代初期における宮崎開きや当時の人々のくらしの様子に関心を持ち、宮崎安貞の行った開墾事業やそのもととなった考え方等について意欲的に調べることができる。 宮崎安貞の功績に対して多くの人々が感謝し敬う気持ちについて意欲的に調べ、地域の発展に関心を持つことができる。
○ 問題を解決する力	<ul style="list-style-type: none"> 地域に残る宮崎安貞や宮崎開きの資料をもとに、宮崎安貞の業績について問題意識をもち、学習問題をつくることができる。(課題を発見する力) 地域の方からの聞き取りや文書資料等を通して、農業技術や当時の農民の知識に加え、生活の向上を目指した宮崎安貞の働きや苦心について考えることができる。(考える力) 年表や文書・映像資料等の活用を通して、開墾事業の様子や宮崎安貞の考え・働き等について調べ、ラベル図にまとめることができる。(表現する力)
○ 生きて働く知識	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎安貞が自らの苦勞を顧みず、全国を歩いて農民の知識や生活の向上のために尽力したことや、周囲の反対に屈することなく農業実践・研究をしながら地域の発展に尽くしたことについて理解することができる。(見方・考え方)

段階	配時	学習活動と内容	指導・支援
つ	2	1 今までの学習を振り返り、これからの学習の見直しをもつ。 ○「昔の道具」 ○「博多祇園山笠」	○ 現代の生活につながる、昔から伝わるものの存在に気付かせるために「昔の道具」や「博多祇園山笠」の学習を想起させる。
か		2 宮崎安貞についての資料をもとに、学習問題をつくる。 (1) 最近の福岡市西区 界隈の写真と400年前の昔の地図を見比べ、わかったことと疑問に思ったことを整理する。	○ 西区〇〇の農業地区に目を向けさせるために、以下のような資料を用意する。 ①「宮崎開き」の看板がある写真 ②昔の田んぼとその後の田んぼの広さが比べられる地図 ③ガタと田んぼを比べられる写真 ④宮崎安貞のお墓の写真 ⑤顕彰祭の様子を知らせるチラシ ⑥〇〇小の校歌の歌詞 ⑦宮崎安貞を現在に伝える〇〇さんのインタビュー資料
む		○ 分かったこと ・「宮崎開き橋」という橋 ・安貞さんのお墓に今も絶えない花 ・校歌の歌詞にある「宮崎開き」という言葉 ・昔湿地や海水が入ってきたところが、田んぼになっている。 ・米がたくさんできている ○ 疑問に思ったこと ・「宮崎」の名前 ・お墓を掃除する人やお花をあげる人 ・校歌の歌詞にまでなる安貞さんの存在 ・海水が入るところで米がとれていること ・『宮崎開橋』と『宮崎開井関』 ・人の名前を残してある理由	○ 宮崎安貞という人物を知らせるために、「宮崎(安貞)」は人の名前、「開き」は、開拓した土地であることを教える。 ○ 長い間行われていることに興味・関心をもたせるために、〇〇小学校の校歌や〇〇商店街の安貞祭りについて説明する。 ○ 安貞さんのことを伝え残す人々の存在に気付かせるために、〇〇小学校の校歌を提示し、この校歌が安貞さんが亡くなった後に書かれたことを知らせる。
		(2) 昔と現在の様子を比べて疑問に思ったことをつないで、学習問題をつくる。 学 習 問 題	
		なぜ、〇〇さんたちは、宮崎安貞さんの名前を300年以上ものこしているのだろう。	

つ か む	1	<p>3 学習問題の答えを予想し、追究の計画をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題の答えの予想 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安貞さんがすごいことをしたのだろう。 (だから) 宮崎安貞さんの名前を残したいと思った人がいるのだろう。 ○ 追究の視点 <ul style="list-style-type: none"> 「安貞さんの思いや願い」 「安貞さんの努力や工夫」 「安貞さんの影響」 ○ 調べる方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 文書資料・パネル資料 (教師作成) ・ インターネット検索 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宮崎安貞について調べようとする意欲につなげるために、「何かすごいことをしたから名前が残っている。」「(すごいことをしたから) その名前を残そうと思った人がいたんだ。」と子どもに思わせる。
さ ぐ る	6 ⑤ ① 1 本 時 A 2 ① 本 時 B ①	<p>4 自分の追究計画に沿って、学習問題の答えを調べる。</p> <p>⑤ (1) 資料から、学習問題の答えにつながる事実を探し出し、キーワードにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文書資料 (教師作成) <ul style="list-style-type: none"> ・ 安貞さんの生涯とその働き ・ 開墾事業までの道のり ・ 開墾事業の様子と考え ・ 『農業全書』の内容と考え ・ 『農業全書』を作るまで ・ VTR資料 <p>① (2) キーワードを整理し、ラベル図に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1人で考えたラベル図 <p>5 小グループでラベルについて話し合い、自分のラベル図を見直す。 説明の活動①</p> <p>6 ラベル図をもとに、学習問題の答えについて話し合う。 説明の活動②</p> <p>① (1) 2つの視点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安貞さんの思いや願い ○ 安貞さんの努力や工夫 <p>① (2) 視点「安貞さんの影響」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安貞さんの影響 ○ 3つの視点から 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事実が何かを明確にするために、文書資料それぞれから学習問題の答えにつながる大切な事実の線を引く。 ○ 事実を整理するために、線を引いた部分を学習プリントに書きまとめさせる。 ○ 中間交流会では、ラベルの数が多すぎる児童は、精選できるように、少なすぎる児童は付加できるように、グループ分けを工夫する。 ○ 付加・修正させるために、付け加えがしやすい内容をもつ児童を、はじめに発表させる。 ○ 事実を確かにするために、根拠となる資料を明らかにして、指しながら説明するように指導する。 ○ 最終的に、全てのラベルが関連をもつことに気付かせるように、意見交換を行う。
ま と め る	3 ① ① ①	<p>7 完成したラベル図をもとに学習問題の答えをまとめる。</p> <p>① (1) 完成したラベル図をつかって、自分なりの学習問題の答えを整理する。</p> <p>① (2) 学習問題の答えについて説明し合い、お互いのよさについて話し合う。 説明の活動③ (説明例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>宮崎安貞さんは、収穫を増やして農民の生活をよくしたいと願って、黒田藩に開墾の願いをし、「宮崎開き」とよばれる田畑を作りあげたり、自分で農業について学んだことを実際に確かめたりして、そのことを農業全書に書いた。宮崎開きはその後福岡市の農業の中心地となる田畑となり、農業全書はベストセラーとなるほどたくさんの人に読まれた。人々が喜ぶことをした安貞さんを尊敬した〇〇さんたちが、今でも宮崎安貞さんのことを伝えようと顕彰祭を行うことで、300年以上も名前が残っている。</p> </div> <p>① (3) 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元全体を振り返りまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題の答えを説明するために、どのラベルを使うか考えさせる。 ○ 考えを深めるために友達と自分の選んだラベルの違いに着目させる。 ○ ラベル図をもとに、宮崎安貞さんについて文章にまとめる。

4 本時A 提示物（ラベル図）をつかった説明の活動① （10／15）

5 本時の目標

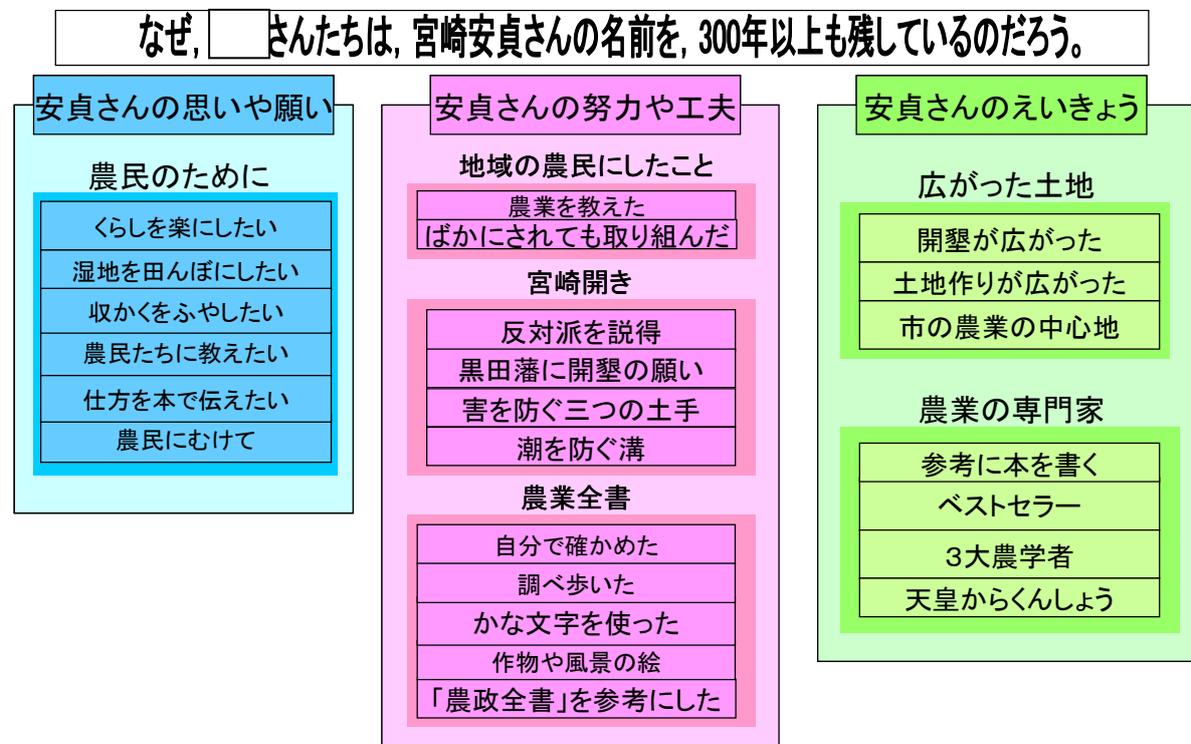
- 友達のラベル図と自分のラベル図を比較し、安貞さんの思いや願い、安貞さんの努力や工夫、安貞さんの影響の3つの視点から見直し、宮崎安貞さんの名前を300年以上も残している理由について考えることができる。

6 本時指導の考え方

- 児童は前時まで、学習問題「なぜ、〇〇さんたちは、宮崎安貞さんの名前を300年以上も残しているのだろう。」について、安貞さんの思いや願い、安貞さんの努力や工夫、安貞さんの影響という3つの視点で追究し、自分なりに文書・写真資料等から調べた事実をもとにラベル図を作成している。しかし、3つの視点に足りない事実があったり、その根拠がまだ明確でなかったりする児童もおり、十分な事実認識を行うまでには至っていない。そこで本時は、少人数で説明の活動を行い、自分のラベル図と友達のラベル図を比較させながら付加・修正し、ラベル図を完成させ、事実認識を深めるようにする。
- そこで、本時指導にあたっては、次のような手だてをとる。

(1) 提示物（ラベル図）

本時に検討させたいラベル図は、それぞれの視点に沿って大体はできているものの、まだ事実認識が十分とはいえない児童のラベル図である。そのラベルについて具体的な資料をもとに事実認識を行わせていきたい。また、ラベルの数は一つの視点につき10枚前後に絞らせておき、重要だと思う順に並べさせるようにしておく。



(2) 交流の工夫

- ラベル図をつかった説明の活動
それぞれの視点やタイトルごとに、ラベルを書いた理由、具体的な資料をもとに根拠を明らかにしながら説明する。そして、友達と同じもしくは似ているキーワードには印を付けたり、違うキーワードには質問をさせたり、資料を確かめさせたりさせる。
- 交流させる順序
それぞれの視点の事実認識を深めるために、視点ごとに次の手順を踏んで交流させる。
 - ① 自分のラベル図について説明する。
 - ② 同じラベルには印を付ける。
 - ③ ラベルに書いてある言葉の意味が分からないものについて質問する。
 - ④ 自分のラベルと比較し、足りない分を付加する。
- 交流の順序を提示した板書
交流の順序は、前もって黒板に提示し、それを見ながら各グループで話し合いが進められるようにしておく。

7 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援
<p>1 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。 学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なぜ、〇〇さんたちは、宮崎安貞さんの名前を300年以上ものこしているのだろう。</p> </div> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分のラベル図と友達のラベル図を比べて話し合い、自分のラベル図を見直そう。</p> </div> <p>2 話し合いの仕方について、確認する。</p> <p>【話し合いの仕方】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 自分のラベル図について説明する。 (聞いている人は、同じラベルに○をつける。)</p> <p>② 質問する。 ・キーワードの意味 ・そのキーワードにした理由 ・どこからその理由が分かるか(根拠)</p> <p>③ ラベル図を見直す。</p> </div> <p>3 小グループで説明の活動を行い、自分のラベル図を見直す。</p> <p>(1) 話し合いの仕方に即して、説明の活動を行う。</p> <p>【見直す視点】</p> <p>A 安貞さんの思いや願い B 安貞さんの努力や工夫 C 安貞さんの影響</p> <p>(2) 自分のラベル図を見直し、付加・修正を行う。</p> <p>4 「今日の学習で」を書き、本時の学習を振り返る。</p> <p>【振り返りの観点】</p> <p>○ 自分のラベル図のどこが変わったか ○ 変わった理由は何か(誰の、どんな意見で)</p> <p>児童の変容の例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>私は、「安貞さんのえいきょう」のラベルが増えました。それは、〇〇さんの説明を聞いて「安貞さんのえいきょう」の意味がよく分かり、どのラベルを増やせばいいのかが分かったからです。</p> </div>	<p>○ 小グループや個別指導で活用できるように、前時までの児童のラベル図をもとにカルテを作成しておく。</p> <p>○ ラベル図について、理解が深まるように話し合いの仕方を黒板に提示し、確認する。</p> <p>○ ①自分の考え、②そう考える理由、③根拠となる事実を、資料と関連付けながら説明できるように、説明の仕方を事前に指導しておく。</p> <p>○ 自分のラベルと友達のラベルとを比較し、同じだったり、似ていたりするキーワードには○を付けさせる。違うキーワードには質問をし、その理由を説明してもらいながら、話し合いを深めていくことを示唆する。</p> <p>○ 修正が困難な児童に対しては、小グループの友達のラベル図を参考にさせ、自分のラベル図と似たところ、違うところを見つけるように助言する。</p> <p>○ 振り返りの観点をもとに、「今日の学習で」を書きまとめさせる。</p> <p>○ ラベル図が、より確かなものになったことを実感できるように振り返りの観点に即して「今日の学習で」を書くことができた2～3人に発表させる。</p>

4 本時B 提示物（ラベル図）をつかった説明の活動②（12/15）

5 本時の目標

- 友達のラベル図と自分のラベル図を比較し、安貞さんの思いや願い、安貞さんの努力や工夫の2つの視点の事実を学習問題とつないで考えることができる。

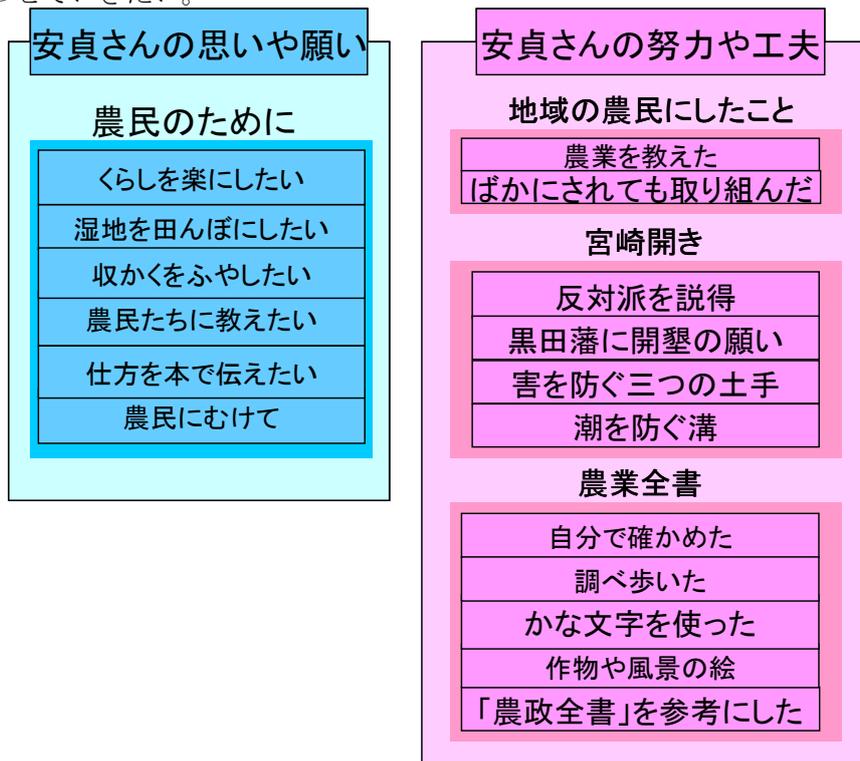
6 本時指導の考え方

- 前時まで、学習問題「なぜ〇〇さんたちは、宮崎安貞さんの名前を、300年以上ものこしているのだろう。」について、安貞さんの思いや願い、安貞さんの努力や工夫、安貞さんの影響という視点で追究し、自分なりに文書・写真資料などから調べた事実をもとにラベル図を作成している。その後、少人数グループで説明の活動①を行い、事実認識を深め、3つの視点それぞれの事実について事実の整理は各グループなりにできている。しかし、3つの視点に足りない事実がある児童は、十分な事実認識を行うまでには至っていない。そこで本時では、代表児が作成したラベル図を用いて全体で説明の活動②を行い、自分のラベル図と比べさせながら付加・修正したり、タイトル分けの言葉を検討したりして、事実認識を深めるようにしたい。そこで、本時指導にあたっては、次のような手だてをとる。

(1) 提示物（ラベル図）

それぞれの視点から調べた事実をもとに、代表児のラベル図を拡大して提示する。

本時では、①安貞さんの思いや願い、②安貞さんが行った努力や工夫の2つの視点のラベルを提示する。本時に検討させたいラベルは、それぞれの視点を具体的に表すラベルや、児童の事実認識が足りないラベルである。これらのラベルについては、具体的な資料をもとに事実認識を行わせていきたい。



(2) 交流の工夫

- ラベル図をつかった説明の活動
それぞれの視点やタイトルごとに、ラベルを書いた理由、具体的な資料をもとに根拠を明らかにしながら説明する。そうして、言葉は違うが示す内容が同じラベルを確認したり付け加えたりした方がよいラベルを提案することで事実認識を深めていく。
- 代表児の選定
足りないラベルがある児童に納得できる事実を認識させるために、代表児は事実認識がかなりできているが補足を必要とするラベル図を作成した児童とする。
- 操作できる板書
視覚的に分かりやすいように、ラベル図は視点ごとに色分けする。また、付加・修正ができるように、ラベルは移動可能なものにし、新しいラベルを準備する。

7 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援
<p>1 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。</p> <p>学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なぜ、〇〇さんたちは、宮崎安貞さんの名前を300年以上ものこしているのだろう。</p> </div> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習問題の答えについて、自分のラベル図と友達のラベル図をくらべて話し合い、ラベル図をよりよくしよう。</p> </div> <p>2 代表児のラベル図をもとに、自分のラベル図を見直す。</p> <p>(1) 代表児が自分の作ったラベル図を説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A 安貞さんの思いや願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湿地をよりよい田んぼにしたい ・農民の人達に読んでもらいたい </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>B 安貞さんの努力や工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・害を防ぐ三つの土手 ・かな文字を多くし、誰にでも分かる言葉で書く </div> <p>(2) 代表児と自分のラベル図を見比べながら、ラベルを検討する。</p> <p>【検討の観点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 代表児のラベルとの共通点 ② 代表児との相違点 ③ 余分なラベルの削除 ④ 足りないラベルの付加 <p>3 自分のラベル図を見直し、付加・修正を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 付け加え ○ 書き換え ○ 削除 <p>4 「今日の学習で」を書く。</p>	<p>○ これまでの学習を想起し、学習問題の答えを説明しやすくするために、前時に完成したラベル図を拡大したものを黒板に提示しておく。</p> <p>○ 説明の活動が行いやすいように、次のようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表児のラベル図を、他の児童に配付しておき、質問する箇所を考えさせる。 ・代表児のラベル図を選び、拡大しておく。 ・ラベルは視点ごとに色分けし、取り外しや移動がしやすいようにしておく。 ・ラベル図を作るまでに使った資料を拡大して掲示しておき、自分の意見や考えの根拠として指しながら説明させる。 <p>○ どの資料からどのような考えでそのラベルを書いたのか根拠を明らかにしながら説明させる。</p> <p>○ ラベル図の修正が進まない児童には、板書を参考にしたり、周囲の児童と相談したりしながら修正するように助言する。</p> <p>○ ラベル図がより確かなものになったことを実感できるように、付加・修正した自分のラベル図を見直し、学習問題とつないで、分かったことや理由について書かせる。</p>